特別講座③

特殊な融合問題

発展問題

◆◇◆ 次の文章は「伊曾保物語」の一節です。これを読んで、後の問いに答えなさい。〈徳島〉

ある川の辺に、蟻、遊ぶ事ありけり。俄に水かさ増さりきて、かの蟻を誘ひ流るる。浮きぬ沈みぬする所に、鳩、木末より、これを見て、哀れなる有様かなと、木末を少し食い切りて、河の中に落しければ、蟻、これに乗つて、渚に上がりぬ。かかりける所に、ある人、竿の先に*鳥黐を付けて、鳩を刺さんとす。蟻、心に思ふやう、只今の恩を送らうものをと思ひ、かの人の足に、しつかと食い付きければ、おびえあがつて、竿を彼所に投げ捨てて、その者の色や知る。然るに、鳩、これを覚つて、何国ともなく、飛び去りぬ。その如く、人の恩を請けたらん者は、いかやうにも、その報ひをせばや、と思ふ志を持つべし。

（注）　鳥黐＝鳥を捕らえるのに使う、粘り気の強い物質のこと。

出題傾向　●文章の読解と発表、話し合い、意見文の作成など、さまざまな要素を合わせて出題し、国語の知識を総合的に活用する力を見る傾向がある。

(1) ――線「送らう」を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書きなさい。

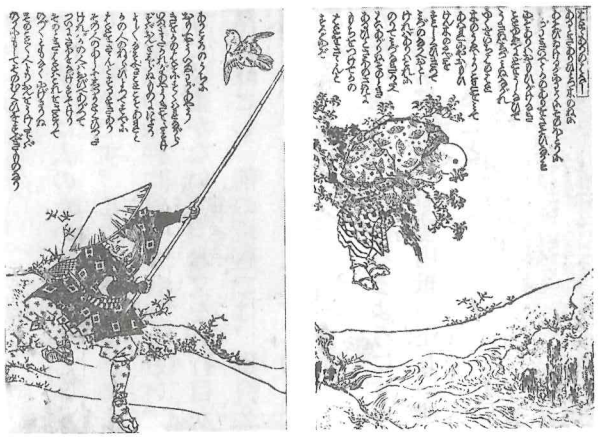
(2) 文章中で、教訓として記述されている一文を抜き出し、初めの五字を書きなさい。

(3) 「伊曾保物語」は「イソップ物語」を翻訳した物語ですが、日本で現存する最古の物語で、「物語の出で来はじめの祖」といわれている作品を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　源氏物語
イ　平家物語
ウ　伊勢物語
エ　竹取物語

(4) 資料1は、「伊曾保物語」をもとにして、江戸時代後期に作られた作品の挿絵です。保育体験実習に参加する春香さんはこの挿絵を見て、「伊曾保物語」の文章をグループで紙芝居にすることを思いつき、実習で活用しようと考えました。次は、春香さんのグループが作成している紙芝居のうち、二つの場面についての読み原稿A・Bと、それに対する春香さんと拓郎さんの対話の一部です。これらを読んで、後の各問いに答えなさい。

資料１



（為永春水作（ためながしゅんすい）・歌川貞重画（うたがわさだしげ）「絵入教訓近道（えいりきょうくんちかみち）」より）
所蔵・写真提供　青山学院大学図書館

読み原稿Ａ

ありが浮いたり沈んだりしているのを、木の上にいたはとが見つけました。

「ありさん、これにつかまれ！」

読み原稿Ｂ

ありは、さっきの恩を返そうと思って、その男の足にしっかりとかみつきました。

「いっ、いたたっ！」

男はびっくりして、さおを投げ捨てましたが、ありが恩返しをしたなんて、知るはずもありません。

対話の一部

春香さん　この紙芝居の中で、この二つの場面は大事だと思うんだけど、どうかしら。

拓郎さん　僕もそう思うよ。相手に対する思いやりが行動に表れている場面だからね。

春香さん　鳩に助けられた蟻が鳩を助けるという、これは恩返しの話よね。

拓郎さん　そうだね。人に親切にすると、結局は自分にプラスになって返ってくるんだよ。

春香さん　そう言えば、この前授業で「情けは人のためならず」のことわざを習ったわね。

拓郎さん　本当だね。でも、僕は、ずっとそのことわざの意味を勘違いしていたんだ。人に情けをかけるのは、その人のためにはならないっていう意味だと思っていたんだよ。

春香さん　私もそうよ。結局は自分のためになるという意味だったなんて、先生が言うまで知らなかったもの。

1　読み原稿Ａの［　　］に当てはまる文を、三十五字以上四十字以内で書きなさい。ただし、本文を踏まえて、鳩の心情、具体的な行動とその目的を説明した文にすること。

35

問題は次ページに続きます。

2　対話の一部中の═線「言う」を適切な敬語に直しなさい。

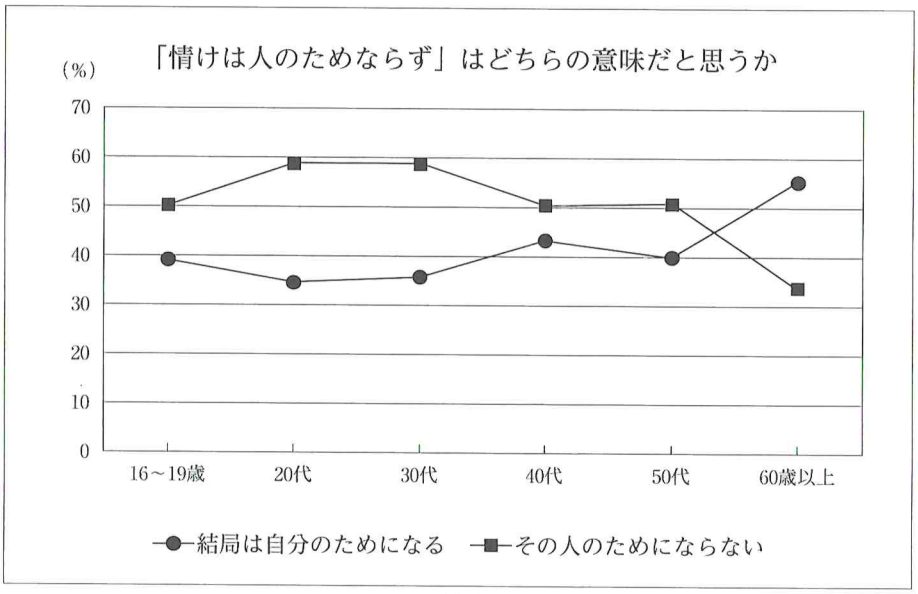
3　春香さんと拓郎さんの発言について述べたものとして適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　春香さんは、対話に関連する、新たな話題を提供している。
イ　春香さんは、確認の言葉を用いて、相手の発言を促している。
ウ　拓郎さんは、自分の経験を述べることで、相手に反論している。
エ　拓郎さんは、最初に相手の発言を受けとめてから、話している。

(5)　資料2は「情けは人のためならず」ということわざについて、文化庁が世論調査をした結果です。この資料2を踏まえて、このことわざについてのあなたの考えを次の条件に従って書きなさい。

①　題名などは書かないで、本文を一行目から書き始めること。
②　二段落構成とし、前の段落では、資料2から読み取ったことを書き、後の段落では、それを踏まえて、このことわざについてのあなたの考えを書くこと。
③　全体が筋の通った文章になるようにすること。
④　漢字を適切に使い、原稿用紙の正しい使い方に従って、十～十三行の範囲におさめること。

資料2



（文化庁「平成22年度国語に関する世論調査」より作成）

13　10

アドバイス

古文の読解、紙芝居の読み原稿の作成、話し合い、作文などが融合（ゆうごう）した問題である。さまざまな要素が盛り込まれているが、慌てずに、問題を一問ずつ解いていくことが重要である。

まず、(1)～(3)は、古文に関わる問題である。この「伊曽保物語」のような説話・物語は、エピソードが描かれている部分と、そこから得られる教訓や筆者の感想が述べられている部分に分けられることが多い。その構成を捉えることが必要である。

(4)は、古文を踏まえた、紙芝居の読み原稿の作成と話し合いの問題である。紙芝居は、古文の内容を幾つかの場面に分けて絵を描き、その場面を地の文と会話で再構成したものである。したがって、読み原稿が、古文のどの場面にあたるかを押さえればよい。話し合いの問題は、発言者の発言の意図をつかむことがポイントである。

(5)は、グラフから読み取ったことをもとに、考えを書く作文である。いちばん大切なのは、グラフから読み取った事実と、それをもとにした自分の考えをきちんと書き分けることである。グラフを読み取るにあたっては、数値が飛び抜けていたり、顕著な変化が表れていたりする部分に着目するとよい。

さまざまな要素が盛り込まれているものの、複数の要素を関連させて解く問題は多くない。それぞれの問題を、古文の読解の問題、話し合いの問題、作文の問題などと、一問ずつ落ち着いて解くことが大事である。

1 0 9 8 7 6 5 4 3
* * D C B